

農園通信

2024年5月・6月

発行・問合せ先: 島本町農業振興団体
協議会・町民農園部会 福田

fukuda-ka@amail.plala.or.jp

夏野菜の植え方と初期管理

- 1, 苗はポットごとバケツの水に浸けて十分吸水させる。そのことで、ポットが外しやすく、根付きも良くなる。
- 2, 苗は穴を深く掘って植えるのではなく、浅く植えて広く周りの土をポットの土面まで寄せて植える。島本の土は粘土質が多いので、深植えすると水分で根腐れするリスクがある。
根は水分も少しは要るが呼吸するための空気が必要。うねの中の空気をイメージする。
元が田んぼの畑は高うねの方が良い。
- 3, 苗を植えた後はあんどんをするのが良い。寒さ、暑さ、風、乾燥を防げる。キュウリ、カボチャなどのウリ科はウリハムシも防げる。(カボチャには不織布掛けが良い)
- 4, 水やり: 定植時にはしっかり水をやるが、後は土が乾いていなければ水やりは要らない。土が乾かないように工夫すればよい。ここはプランターと大きく違うところ、畑は広い大地とつながっている所以根は水を求めて伸びる。



土の水分量だけでなく、土の空気量が大切

土を大切に 畑の土を捨てないで!



◆土は岩石ではない。1cmの土が出来するのに500年掛かる。

土が出来たのは地球46億年の歴史のうちの最近の5億年。海から陸に上がった植物の落ち葉が生物に食べられて細くなっていったものが混ざり、それをまたミミズが食べて糞として固まり、それが土になっていきます。

◆土の深さは2mしかない。土は貴重な資源 2mは地球の半径の100万分の1、地球の薄皮です。その2mにすべての命が繋がっています。

◆“土も疲れる” 畑を使い続けると土も疲れます。外から肥料を入れるだけではだめです。野菜は根から栄養分を吸い上げますが、それらを作っているのは土壌微生物(細菌、放線菌など)です。目に見えない微生物の働きに感謝です。「土壌微生物が住みやすい環境とは?」(次号)
#国連、土の危機を訴えー世界では塩害の為に毎年岩手県1つ分の農地が放棄されていていきます。日本は水も土も豊富にあり農業をするのに恵まれています。私たちは当たり前すぎて、土・水のありがたさを忘れているのかも知れません。

農園通信の
アーカイブ



(;^ω^;)観察が力



自分の畑だけでなく、他の畑もどんどん観察
しましょう。野菜作りは1年1回の経験ですが、
10人の畑を観察すると10年分経験できます。
レベルアップの鍵は観察にあり

経験談

(Sさん)

ソラマメは当初は生育を心配しましたが、20株程植えたこともあって沢山収穫出来ています。アブラムシも殆どつきませんでした。収穫は房が下がり背が黒くなってきたら、と言われていますが、豆がしっかり入った段階で早めに収穫しています。

本年はそれなりに気を使いながら育てています。最上段(5~6段)がどの程度大きくなってくれるかが楽しみです。種は昨年分が沢山ありますので、本年はすべて食べることにしました。

(Tさん)

家庭菜園2年目。ソラマメを始めて作りました。とっても良く出来てうれしいです。元肥(石灰、牛糞堆肥)が良く効いたのか背も高く、1株6本以上の茎ですが大きな鞘を付けています。4月、先端に大量のアブラムシが付きましたが、茎の先端をみな切ればあとはテントウムシが退治してくれました。

(Fさん)

昨年10月末に畑にソラマメの種を40cm間隔で1か所1粒(もったいないので)蒔きました。発芽率は90%。もう1か所はまだピーマンが植わっていて空いてなかったのでポットで苗を作り11月に定植しました。直播きのものは発芽後勢いがあり、苗植えしたものと生育ははっきり差がありました。苗植えの木は、大きさ収量とも直播きの半分ほどです。えんどう豆やソラマメは、今までの経験から、苗植えより直播きの方が良いと感じます。(大豆(枝豆)は苗植えでも全く問題ないです。)

えんどう豆、ソラマメの実りは一刻ですね。昨年10月末から11月初めに種を落として、冬を超え春に一気に実を結びます。毎年えんどう豆の収穫が終わると一季節が終わったなと思います。

(Hさん)

今年のスナップエンドウはたくさんできたが、すじばっていて美味しくない。人にもらってもらえない。3月の気温が低かったせいかな？

(Nさん)

実エンドウ、スナップエンドウ共に良くない。昨年の秋から支柱を立てて防寒をして手を掛けて来たのに…。雨が多いからか？

#4. 5月の豆類

今年の春は雨が多いからか、全般に、ソラマメは良いようです。スナップエンドウはまずまずの出来、実エンドウは上段に実が付かず良くないようです。

#Fさん・サツマイモの苗づくり

例年3月下旬に、昨年収穫して新聞紙にくるんで暖かい部屋に保存していたサツマイモをベランダのプランターや発泡スチロールの箱の土に芽を土の上に出して埋め込みます。今年は3月の気温が低かったので4月になってから埋め込みました。気温の低い間は透明のゴミ袋等を掛けて保温します。順調に芽を伸ばして、もうすぐ植えられそうです。



5/7 撮影

農園の空き情報<問合せ先> 島本町農業振興団体協議会・町民農園部会：福田

✉ fukuda-ka@amail.plala.or.jp

